

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	M.U.	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	アメリカ合衆国
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	第2クォータープログラム		
期 間	2024 年 6 月 27 日～ 2024 年 8 月 12 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

毎週月曜・水曜はアメリカ文化や発音・リスニング・ライティングのクラス、火曜・水曜はコミュニケーション・文法・リーディングのクラス、金曜はグループごとに毎週何か作るクラスだった。

アメリカ文化や発音のクラスでは、アメリカ（特にサンディエゴ）の基本的な情報、アメリカの家族の在り方の特徴、アメリカのランチの仕方の特徴を、個人の調査やディスカッション、クイズなどにより学んだ。毎週末レストランなどで現地の人を観察したり、直接聞いたりしてそれらを事前に宿題として調べ、自国の特徴と比較して授業が進められた。アメリカは家族愛が強いかつ大家族で住むイメージを持っていたので、日本と同じように核家族の割合が増えていることを知り驚いたことが印象に残っている。また、発音は宿題として毎週末出され、動画を見て録音するという簡単なものだった。

リスニングのクラスでは、映画を見ながら聴き取り、プリントの質問に答え、聴きとれた単語を穴埋めするというものだった。私はあまり海外の映画を見ないので、海外特有のジョークや題材がそもそも面白かった。しかし、リスニングは苦手だったので聴き取れないことが何度もあり、答えをディスカッションする時間で互いに教え合っていた。とはいえ、ネイティブの早い会話で聴きとる練習は日本の授業ではできないし、海外の映画に触れるハードルが下がったので有意義な授業だった。宿題はほとんどなかった。

ライティングのクラスでは、最初2週間は formal な単語と informal な単語を使い分けて文章を書く練習、その後4週間は should have・wish・if などを使い「～しておけば…なかったのに」を表す文章を書く練習を行った。毎週末 250 単語以上の文章を書く宿題が出されかなり大変だったが、何度も同じ表現を使って練習したためこれらの表現は完璧に身についた。

コミュニケーションの授業では、グループであるテーマに関してディスカッションすることがほとんどでとにかく自分の意見を話し相手の意見を聞くコミュニケーションをした。また、最後の方に食の myth に関してペアでプレゼンテーションを行った。このプレゼンテーションでは台本などを全く見ずに話さなければならず、いつも台本をしっかり用意してプレゼンテーションに臨んでいたのが不安でたくさん練習した。順番はランダムで最後になったが、十分に準備していたので自信をもって話すことができた。私は留学に行くま

で英語を話す機会がほとんどなかったため、この授業は毎回疲れたし上手く言いたいことが英語で言えずもどかしい時もあったが、最も成長できた授業だと思う。また、宿題は毎回5分以上特定のテーマについて話し録音するというもので、5分は思ったより長く大変だった。

文法のクラスでは、unreal conditional なことの書き方について学んだ。先生の解説の後問題を解いたりペアでこの文法を使ってプリントの問題を行ったりした。文法は得意だったので、自分にとっては簡単だった。宿題はプリント1枚ほどですぐに終わるものだった。

リーディングのクラスでは、前半は文章問題を段落ごとに交代で読んで後問題に答えていく日本のような授業、後半は Diary of a wimpy kid を読んで問題に答えるものだった。リーディングは得意なので、前半は簡単すぎるくらいだった。後半の本は、知らない表現や単語がよく出てきたが、先生が毎回丁寧に分かりやすく解説してくれたので理解することができた。この本の主人公や登場人物、世界観などが面白おかしく、先生も程よく緩く授業を進めていたので毎回楽しかった。宿題はなかった。

金曜のクラスでは、環境改善啓発のポスターを作ったり、コミコンを学びグループで漫画を描いたり、毎回何かを作成した。普段同じクラスでない子とも交流できる時間だったので、そこで新しい友達を作れたのが良かった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

- ・アメリカの基本情報や文化
- ・formal な単語と informal な単語の使い分け
- ・should have、wish、regret、if~wouldn't を使い、「～なら…のに」を表す表現
- ・unreal conditional を表す表現
- ・ネイティブの挨拶の会話
- ・それぞれのクラスで新たに学んだ単語や表現
- ・相槌や返事のバリエーション

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400字程度)

授業全てに対して変化したのは、英語に触れることへのハードルが下がったことだと思う。英語は学校でしか勉強したことがなく、高校の頃文法やリーディングをしっかり勉強していたとはいえ、リスニングは苦手でスピーキングはほとんど経験したことがなかったので、自分の英語能力には全く自信がなかった。しかし、同じく英語を学ぶために他国から来た人達と授業を受け、間違ってもよく、むしろ間違えることで先生や他の子に指摘し正しい言い方を教えてもらうことが大事なのだと思えるようになった。また、今まで勉強してきた文法やリーディングはかなり身につけていたことを実感して自信がついた。留学前に事前テストを受け自分にあったレベルの授業に振り分けられていたが、文法やライティング、リーディングの授業は比較的容易だと感じ先生にも文章を書くのが上手だと褒められ嬉しかった。しかし、リスニングやコミュニケーションの授業ではディスカッションが多く自分のスピーキング能力の低さを実感したので、実践は大事だと思わされた。

(4) 今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

まず、今回の留学で成長した英語能力を退化させないよう、英語の学習を続けていきたい。具体的には、「英語に触れざるを得ない環境に身を置くこと」は英語を上達させる最も方法だと実感したので、APE やコミュニケーションアワー、英語の映画や動画視聴によるリスニング・シャドーイング練習などをしたいと思う。また、大学生のうちにもう一度、今度は短くても半年以上の長期留学をしたいと考えている。時間のある学生のうちに、簡単に忘れないくらい英語に触れ身に着けて、今回の初めての留学経験が無駄にすることのないよう活かしたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	H.Y.	学部・学科	国際教養学部
学 年	2 年	派遣国	アメリカ
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	Intensive English for Communication		
期 間	2024 年 6 月 27 日～ 2024 年 8 月 11 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業：reading ,writing ,speaking, listening, grammar, English action
 月曜日から木曜日まで9時から14時15分まで授業があった。基本的な英語の文法や会話表現などを学んだ。先生方はとても親身で丁寧に質問に答えてくれ、添削もしてくれた。フレンドリーな先生が多かったため授業は楽しかった。英語の文法を英語で学ぶという経験は面白かった。授業内容は今まで中高で習ってきた内容の復習のような感じであったので難しすぎることはなかった。英語で英語の文法の規則性を伝えるという授業もあり、今まですることがなかったためいい経験になった。単位を取るためには出席することとペーパーテストやスピーキングテストを必ず受けることが必要であった。何度かテストを受けたがどれも対策すれば解ける内容であった。金曜日は11時45分までの授業でクラス分け関係なく全員で受けた。月曜から木曜は英語の勉強メインで金曜はポスター作りや漫画作りなどのアクション系であった。土日は授業はなかった。課題は多すぎることはなく適切な量であった。同じクラスには様々な国、年齢の人がいて英語を使わなければならない状況であったため練習になった。授業では生徒同士で話し合い、協力して問題を解くことが多かったため、周りの人と自然に友達になれた。授業のコマ数が多くなかったためその子たちと一緒に放課後サンディエゴの観光地に遊びに行ったり、校内にある施設で遊んだり、課題を終わらせたりとても有意義な時間を過ごすことができた。放課後はダウンタウン、土日にはロサンゼルスなど勉強とアクティビティの両立ができた。印象に残った授業はクラスメイトと協力して校内をめぐりながらミッションをクリアするという内容の授業である。広い校内を回って普段行かないところに行くことができ、時間内にミッションをクリアすることができたので楽しかった。英語を楽しく学ぶことができる環境が整っていたためいい時間を過ごすことができた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業でネイティブがよく使う表現を学んだ。先生がアメリカ人の特徴やものの言い方を面白く教えてくれた。日本の学校で学んだことのなかった言い回しを知ることができてよかった。人の性格を表現するときによく日本人が使う"kind"という形容詞はアメリカの人は使わないということを知り驚いた。日本にいて英語を使ってもわからなかったのが知ることができて良かった。一つのトピックについて意見を言い合う授業が多かったのだが、その授業を通して他の国との文化の違いを感じることができた。アメリカにしながらアメリカ人とだけでなく各国に人と会話することができてよかった。周りのクラスメイトはよく発言し先生に質問していて、積極的であったことからそれを見習って会話に混ざるようにした。最初は会話に混ざりづらかったが入ることができたので自分から話すことは大切だと分かった。また、日本人が言いづらい r と l の正しい発音の仕方、舌の使い方を教えてもらった。これらの音は意識的に言わないと正しい音で身に付けることができないと思ったので意識して言うようにした。授業から様々なことを吸収することができたので良かった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

最初は英語が通じるかの不安のほうが大きかったが、授業や日常で使っていくうちに英語を話すことへの抵抗が少なくなった。間違いを恐れ、自分の言いたいことが言えないのが一番良くないことであるので失敗を恐れないことが大事であると分かった。また、ネイティブが使う表現を知ることができ、生きた英語を知ることができて良かった。また、ホームステイだったのだが、最初はホストファミリーとうまくコミュニケーションを取れるか不安であったがたくさん話していくうちに意思疎通を図ることが出来た。自分の部屋にこもってしゃべらないのが一番良くないことで会話する機会を逃さないのが自分の語学力向上に役立つと感じた。ホストファミリーとの会話でアメリカ人がよく使うスラングや美味しい料理の作り方を教えてもらったことがいい経験になったため、話しかけに行くことが重要だと思った。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

英語は使っていないと忘れてしまうので、ホストファミリーと定期的に連絡を取ったりネイティブと会話できるイベントに参加したりして英語に触れる機会を失わないようにしたい。この留学でできた各国の友達と定期的に連絡を取り合って語学力向上に努めたいと思う。また、この留学で伸ばした英語力を試すために英検や TOICE を受けて力試しをしたい。今後も英語の学習を継続し使える英語力を身に付けていきたいと思う。